

JCVP 会員資格認定試験問題案の作成について（依頼）

JCVP 理事長 山手丈至
試験委員長 桑村 充

2019年度 JCVP 会員資格認定試験問題案の作成を依頼申し上げます。下記の作成要領をよく読んで作成願います。試験問題を作成すると JCVP 会員資格更新時の評点として1回につき10点が加算されます。

JCVP 会員資格認定試験問題案作成要領

1. 問題案の作成方法

JCVP のホームページ（日本獣医学会病理分科会 JSVP との合同ホームページ）（<https://jsvp.jp/>）の EXAMINATION から問題案作成用の Excel file をダウンロードしてください。問題区分、分野、問題案、正解、出題意図および解答解説、出典（図書名、著者名、発行所、発行年、引用頁）、作題者の所属、作題者名を記入してください。記入済みの file を CD-R などにコピーして JCVP 事務担当（株）アイペック 大川忠司宛に、打出し原稿とともにご送付願います（CD-R などは各人ご用意ください）。

問題の作成に当たっては、JCVP 会員資格認定試験受験ガイドラインおよび JCVP 会員資格認定試験実施及び会員登録要項（JCVP ホームページ）を参考にしてください。また、別紙1の「出題に当たっての注意事項」をよく読んで作成してください。***基本図書は最新版に基づき出題してください。出典は必ず2つ以上で確認してください。基本図書以外から出題された場合は、出典部分のコピーを1部提出してください。なお、昨年度(2018年)出題された問題と同一の問題は作成しないようお願いいたします（ホームページに昨年度の問題・解答が掲載されています）。**

*2015年、2016年、2017年に Pathology of Domestic Animals、Pathologic Basis of Veterinary Disease、Tumors in Domestic Animals、毒性病理組織学の最新版（新毒性病理組織学）がそれぞれ出版されていますので、特に御注意ください。

注意：欠落のある場合は、評点として認めない場合があります。間違い・誤解のない試験問題作成にご協力下さい。特に、解答の選択肢は決まっていますので、それ以外の選択肢は使用しないでください。

2. 問題案の作成数、分野

病理学総論（G）の問題を1題、各論は「産業動物（D）」、「伴侶動物（C）」、「実験動物（E）」の内から1つを選び1題、計2題を作成してください。出題の範囲が、総論は以下の8分野から、各論は以下の9分野から、それぞれ1分野がランダムに指定されます。別紙2にあなたの分野が指定されていますのでご覧ください。

総論（下記の範囲を中心にした動物種をまたぐ問題）

- 1 病理学の歴史と概念、細胞の基本構造と機能および細胞傷害のメカニズム
- 2 細胞および組織の傷害と死
- 3 細胞の適応と分化異常、細胞の増殖と分化およびその異常
- 4 循環障害
- 5 炎症、免疫病理
- 6 腫瘍
- 7 染色体、遺伝子および発生の異常、環境性疾患（毒性病理学の基礎）
- 8 感染病理、病理学的研究法

各論 (産業動物、伴侶動物、実験動物のうち1つを選び、下記の器官についての問題、全身に亘る病気を含む)

- 1 循環器
- 2 血液および造血臓器
- 3 体腔・呼吸器
- 4 消化器
- 5 泌尿器
- 6 生殖器
- 7 神経系
- 8 感覚器・内分泌器
- 9 運動器・外皮

3. 提出方法

問題案の file が入った CD-R と、A4 用紙に印刷した問題案を JCVF 事務担当(株)アイペック 大川忠司宛に提出してください。海外在住などの事情によりメール等による提出しかできない会員の方は事前に事務局あるいは委員長までご連絡ください。

また、ホームページから問題案作成用 file をダウンロードできない方は E-mail で下記事務局にご連絡ください。

4. 提出期限、送付先

配達確認が可能な方法(簡易書留/レターパックプラス/宅郵便等)で平成 31 年 3 月 15 日(金) 必着でお送りください。

宛先: JCVF 事務担当 株式会社アイペック 大川 忠司
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-12
TEL: 03-6822-9767 (直通) 03-5978-4067 (代表)
FAX: 03-5978-4068
e-mail: jcvf@ipec-pub.co.jp

5. 問題案のバックアップおよび守秘義務について厳守願います。

作成したデータは破損を考慮して必ずバックアップ保存をお願いいたします。
問題案は他言しないでください。

6. 不明な点の問い合わせ先

試験委員長 桑村 充
〒598-8531 大阪府泉佐野市りんくう往来北 1-58
大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 獣医病理学研究室
電話: 072-463-5342 E-mail: kuwamura@vet.osakafu-u.ac.jp

出題に当たっての注意事項

1. 設問形式

五者択一の設問形式で、問題文の問いかけ、記号、解答の選択肢は例題 1、2 の形式のみとする。

- 例題 1 …はどれか。
…について正しいのはどれか。
…に関する記述として最も適当なのはどれか。
診断として正しいのはどれか。
原因として最も疑われるのはどれか。
最も疑われる疾患はどれか。

など

- a.
- b.
- c.
- d.
- e.

- 例題 2 …に関する正しい記述の組合せはどれか。

- A.
- B.
- C.
- D.
- E.

- 選択肢 a. A, B, C b. A, C, E c. A, D, E
d. B, C, D e. B, D, E

*注意：「解答記号と選択肢の組合せ」はこの組合せに固定すること。

2. 使用する専門用語等

使用する専門用語は、「現代かなづかい」、「獣医病理学用語集^{*}」等に基づいたものとし、薬品名は商品名ではなく、日本薬局方の製剤名で使用する。

※ 第3版 獣医病理学用語集
学窓社 8,400 円（税込み）

3. 素材と質問に関する留意事項

- (1) 基本的で重要な事項を扱ったものか。
- (2) 質問の焦点が絞られているか。
- (3) 「否定型」質問は基本的に作成しない。
- (4) 「二重否定」（設問と選択肢がともに非定型というような）の質問はないか。

4. 識別力に関する留意事項

- (1) 迷わしの引きつけ力は十分か、誤りを含んでいるが、一見もっともらしい記述となっているか。
- (2) 選択肢はすべて対等、平等か、専門的すぎるもの、異質なものの等はないか。

- (3) 故意に引っかけるような表現を使っていないか。
- (4) 正答となる選択肢が不必要に多く設定されていないか。
- (5) 正答や誤りの選択肢が常識的すぎないか。よく考える者だけを迷わすおそれはないか。
- (6) 正答を推察できる抜け道はないか。
 - ① 設問と正答だけに共通な語句がないか。
 - ② 正答だけが詳しく、長くなっていないか。
 - ③ 「すべて」、「常に」、「決して」、「必ずしも」等を迷わしとして安易に用いていないか。
 - ④ 「いわゆる」、「一般的に」、「しばしば」等の表現を安易に用いていないか。
 - ⑤ 正答の作り方や位置に一定の傾向がないか。
 - ⑥ 組合せ式の場合、各選択肢中の正しい語句のバランスがとれているか。
 - ⑦ 他の選択肢から正答が暗示されていないか。
 - ⑧ 正答の組合せを選ぶ設問で、相反する内容を有するような選択肢が存在することにより正答の組合せが限定されることはないか。

5. 正確さに関する留意事項

- (1) 設問の中に暗黙に考えた条件を落としてないか。
- (2) 質問の意味を文字通りとった場合、他の選択肢も正答となる可能性はないか。
- (3) 正答は確実に正答と認められるか。
 - ① 著者の異なる2種類以上の参考資料によって妥当とされているか。
 - ② 実際に解いてみて正答にたどり着くか。
- (4) 誤りの選択肢は確実に誤りであると認められるか。
(参考資料によって誤りであることが確認できるか。)
- (5) 「正しい答」と「最良の答」について、適切な問いかけ方をしているか。
- (6) 互いに関連する選択肢はないか。
- (7) 不正確な表現方法、誤解を招くような表現方法等（厳密に言えば誤りである等）をしていないか。

6. 表現に関する留意事項

- (1) 他の問題と表現の統一（特に質問の言い回し等）がとられているか。
- (2) 不要な表現がないか、表現は簡素平明か、選択肢が必要以上に長くなっていないか。
(選択肢の文章は極力35文字（1行）以内とすること。)
- (3) 受験者の人格を損なうような表現はないか。
- (4) 各選択肢に共通の語句が不必要に繰り返されていないか。
- (5) 選択肢の配列等は妥当か。